

中学2年の時に将来の夢(目標)を見つけ、その職業に就く。30年歩みつづけたい。困難な事。つらい時も「とにかくあきらめなさい」と。決してあきらめなさいという強い思いが前向きな気持ちへとつながりました。自分なりの信念を持つ事。つらい時に支えてくれると思える。失敗してしまったり、不安に陥ってしまったり。逃げたいと思える。どうしたら、次は上手くいくか。もっとよくするためにどう頑張るか。考えるときは、前向きな気持ちを持つ。という事は出来ると思える。

生きていく中でいろんな困難にぶつかる事があります。その一つに向かいあきらめずかかると、解決するために前向きに考える事で進む方向が変わります。自分の将来やりたい事、やりたい者を見つけるためには、小さな努力を積み重ね、夢を叶えるための準備を怠らないで。自分を勇気づける言葉が見つかると思います。

長所を伸ばすだけでなく短所も埋めていかなければならぬ。所が、どんな仕事にも通ずると思える。苦しい事、やりたくない作業もこなしていかなくてはなりません。子供達には、前を向いて、どんどん頑張ってもらいたいと思います。

古田さんが色々な運命の導きとして、物事の捉え方、乗り越え方を、自分の手で自分に身に付けたいのは、古田さんの自分以外の周りの「感謝」と絶対的、ゆるぎない「努力」の積み重ねの賜物だと感じています。人は頭では、そのようなとわかっている、それを実際に体現し、積み重ねること、容易ではありません。自分の子どもにも、うかがいの体現ではなく、本物の心を持ち、賞、感謝によって、得られぬ大切にもつこと、その時(今)はわからなくても、その強さをもち、残り少ないとなった中学校生活も「費まげなさい」と。

一つの言葉が、一つの行動を起こすことにつながります。

その言葉は、他人から与えられるものもあるでしょう。

けれども、自分自身で探し出した言葉こそが、

確かな行動を生み出すものだとして、自覚してほしいと思います。

夢を捨てる事は下切な事です。自分に身合の事、漠然(ボソロ)として夢を放任するのは、一番下切な事。

一番に自分に知りた事だと思える。しかしそれは自分で視え難い多くの部分が含まれます。それは知ることが

どうすれば良いのか? 第三者(身内、心友)が一番下切。第三者から視る自分は、自分が思っている以上に遠く
大いと思える。それが長所である。短長に依ります。長所は最良限継続し持ち続ける事は下切です。

短所と自分な事は、良し短所はよく稀だと思える。改善しつづける事、事は大半を占めると思える。

と言う「考え方」を捨てる事は、人格的成長(偉ぶ事)につながると思える。しかし下切夢を捨てる事は

悪く思える。他人の迷惑を掛ける、他人(周囲)に非(負担)を配慮加えて人格者となる、多くの事を望む。

どうすれば、夢が見つかれば叶うと信じています。